

私が見た中国

宇都宮共和大学 三年

石川 眞矢

私が、今回の中国訪問で感じたことは、中国人の印象と中国の印象に関することです。1つ目は中国人の印象についてです。私は薬局でアルバイトをしており、春節の時期や旅行シーズンになると、多くの中国人観光客が訪れます。その時に訪れる人たちは、商品棚越しに話をしたり、探している商品に対する押しが強かったりと、日本人の私には少し驚く行動をしていました。そのため、中国に到着すると押しの強い人が多いのではないかと、考えていました。しかし、中国に到着してから、様々な施設やお店を利用しましたが、私が考えていたような中国人は1人も居ませんでした。逆に寡黙で物静かな人が多く、話しかけると気さくに話してくれる人が多い印象を受けました。また、中国に訪問した際、新学期が始まる時期と重なり、駅や公共交通機関の利用者が多かったのですが、駅構内を走っている人は居ませんでした。つまり、混雑していても焦ることなく、気持ちに余裕を持って行動している人々が多いと感じました。この精神は、日本人も見習うべきだと思います。

2つ目は中国の印象についてです。私が中国に訪れる前に持っていた印象は、スリや物取り、密売などが多く、空港に着いてからは荷物の管理に細心の注意を払うことがテンプレのように考えていました。しかし、中国ではスマホ決済が普及したことにより、財布を持つ人が減ったため、スリの被害は減少傾向にあるようです。また、歩道や街の至る箇所に防犯カメラが設置されているため、犯罪の抑止になっていると感じました。

以上のことから、今回の中国訪問は私にとって非常に有意義なものになりました。特に、訪れる前に感じていた印象や偏見などを払拭することができたと感じています。これからも、広い視野と志を持って国際交流を行いたいと、改めて思うことができました。

私が今回の訪問で一番感動したことは、中国の人々のおもてなしの心です。日本は世界的に見て「おもてなしの大国」と言われていますが、中国も同じくらい、もしかしたらそれを超えるほどのおもてなしの国だと思います。私たちを招待してくださった杭州市・紹興の方々のお言葉からは、私たち青年団の訪問を喜ばしく感じ、今後に期待していることが強く感じられました。また、日本では見たことがないとても豪華な食事を準備してください、お土産を見ているときはお店の方がたくさん試食を勧めてくれることがほとんどでした。そのような方々と関わっていく中で、お客さんをもてなそうという人々の温かい心を感じました。私は中国を訪れたことはなく中国についての知識を多くは持っていませんでした。そのため、実際の中国の方々の人柄に触れてとても感動しました。それは、私自身が尊敬できる面であり、他人に対して盛大なおもてなしをして喜ばせたいという自分のなりた人物像が思い浮かんだ機会でもありました。

今回の訪問で、中国の代表的な都市である上海・杭州の素晴らしいところを身に感じた私たちこそが、この先の日中の絆を強めるために必要な存在なのだと実感しました。「実際に行ってみなければ分からない」というのはこのことで、犯罪を防止するための多くの防犯カメラや荷物検査、大昔から残されている美しい景色、これでもかというくらいもてなしてくれる人々の温かい心など、私の想像を超える中国の文化を知ることができました。それと共に、友人や家族にこのことを知ってもらいたいという強い気持ちが出てきました。ニュースや教科書に載っている中国がすべてではありません。実際に行ってみることで中国のいくつもの魅力を感じることができます。まずは私が感じた中国という国についての思い出話をたくさんして、中国に行ってみたい、中国の文化をもっと知りたいという中国に興味を持つ人を増やしていければ良いなと思います。

中国訪問を通して

宇都宮大学 二年
菅米地 美空

昨年開催された中国語スピーチコンテスト栃木県大会への参加をはじめ、私が中国に親しみを感じる機会は今日まで増え続けています。その中でもやはり、実際に上海と浙江省を訪問することができたことは、私の中国への興味と親しみをいっそう深める貴重な経験となりました。いくつか私が学んだことや感じたことを書き綴りたいと思います。

まず、中国ではキャッシュレス決済が主流であり、インターネットが発展している印象を受けました。上海の静安寺を訪れた際、一部のお賽銭が QR コードを読み込んで払うという方式になっており、非常にびっくりしたことを覚えています。第 13 中学校に訪問した際は、休み時間に全校生徒で外に出てランニングをしており、日本との違いを感じることができました。

1 番心に残っているのは、中国人のやさしさです。例えば、魯迅故里を訪れた際、ある店の方が私たちを歓迎し、商品である栗などをくれました。また、浙江省大学を訪問した際には、学生が積極的に話しかけてくださり、世代間交流の機会になったと思います。私たちが心から歓迎しているということを、今回の訪問中いたるところで感じ取ることができました。

実際に中国を訪問し、伝統文化や美しい街並みや人々に出会い、よりいっそう浙江省と栃木県の友好に関わっていきたいという気持ちをもつことができました。

最期に、このような機会を設け、応援してくださり、ありがとうございました。

感想レポート

宇都宮大学 三年（浙江大学交換留学生）

酒巻 大雅

はじめに、今回栃木県の青少年を交えた浙江省訪問を企画して下さった日中友好協会、並びに私たちの訪浙を快く受け入れて下さった浙江省人民対外友好協会、杭州第十三中学校、紹興市対外友好協会ほか浙江省の多くの方々へ、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

私は今年の1月に浙江大学の留学を終え日本へ帰国したのですが、留学を終えても冷めない中国への愛が認められ、今回の訪浙に浙江大学留学生として参加させていただくことになりました。一日目の上海市訪問から最終日の紹興市訪問まで、中国の様々な方々に迎え入れられ天にも昇る幸せを感じながら中国を歩き回らせていただきました。

一日目の上海市では、留学中に何度も写真を撮った上海東方明珠に登り、今まで見たことのなかった角度から外灘の夜景を見下ろし、燦爛とした美しい上海の名所を眼に焼き付けました。そして豫園、静安寺と巡り、今では上海の定番観光スポットである各地について柳先生の素晴らしい解説を聞きながら理解を深め、そして今では私の第二の故郷ともいえる杭州市へ高鉄に乗って訪れました。杭州市では、私が留学中に授業の休み時間や放課後に歩き回った西湖周辺や河坊街に行き、留学当時を懐かしみながら龍井茶や茶に合うお菓子を買いました。その午後には宋城千古情を鑑賞し、壮麗な劇団員や舞台演出に圧倒され、新たな忘れがたい杭州の思い出ができました。そして次の日には杭州第十三中学校を訪問し、生徒数の多さや、生徒が手掛けた美術作品のすばらしさに驚かされました。続いて訪れた浙江大学紫金港キャンパスでも相変わらずのスケールの大きさに感嘆しましたが、来る者を両手を広げて迎え入れるようなこのスケールの大きさこそ「中国」だなと感じました。そして最終日の紹興市、天気はあいにくの雨でしたが、河に貫かれた魯迅故里と古風で落ち着いた街並みには雨がとても似つかわしく、黄酒珈琲の瓶に書かれた「煙雨江南」の文字はまさにその日を表した美しい文句でした。そこで私たちは魯迅の外祖父の家や魯迅の通った塾をみたあとに、紹興酒を飲み比べるという非常に贅沢な機会を賜りました。実は紹興市を訪れたのは今回が初めてだったのですが、初の紹興体験がこのように贅を尽くしたものであることになんと感謝を申し上げればよいかわかりません。そして、この五日間を通して常に私たちのお腹を満たしてくれたのは普段ありつけないような高級で大量の中国料理でした。中国に対して更に見識が深まり、中国の方々との交流の機会に恵まれ、ご馳走も毎日食べられる、このような訪浙に参加できたことが信じられません。

また、栃木県日中友好協会の今後の活動において、栃木県内の若者を中心とした青年部の設立の提案が上がり、白石理事長も賛同してくださっています。聞いたところによると、どの都道府県の日中友好協会も未だ青年部を立ち上げていないとのことだったので、栃木県が率先して若いエネルギーを日本と中国の架け橋作りに注力できれば今回の訪浙がさら

に意味をもつことになると思います。日中友好協会青年部が設立された暁には、私もその一員として日中友好事業に従事させていただきたいと考えております。

最後になりますが、重ねてお礼を申し上げます。また訪中の機会がございましたら、よろしく願いいたします。

栃木県青年浙江訪問団に参加して

宇都宮大学 三年（浙江大学交換留学生）

安藤 美海

2024年2月24日～28日、栃木県青年浙江訪問団に参加させていただきました。まずはこのような機会をつくってくださった栃木県日中友好協会の皆様、並びに浙江省人民対外友好協会、紹興対外友好協会の皆様に感謝申し上げます。4泊5日と短い間でしたが、とても貴重な経験をさせていただきました。宇都宮大学から浙江大学への交換留学生として中国に留学し約6ヶ月が経ちました。今回の訪中団参加中に少しずつ中国語での会話ができるようになっていくことに気づき、中国語でコミュニケーションをとることの楽しさを再確認することができました。普段の生活では出会うことのない浙江省人民対外友好協会、紹興対外友好協会の皆様ともお話を交わす中で、私たち学生の存在がミクロな側面から日中友好を促進していく存在だということに気づきました。2023年に栃木県と浙江省は友好県省提携30周年を迎えました。これから先も日中友好の架け橋として、未長く栃木県と浙江省が友好を保ち、日中交流が広がることを願っています。そして私自身もミクロな側面から日中友好に関わっていきたいです。

日中友好の架け橋になりたい

浙江大学 博士二年

成田 博熙

この度、浙江省人民対外友好協会のご招聘により、栃木県日中友好協会白石雄治理事長を団長とする栃木県青少年—浙江省訪問団一行12名が4泊5日間の日程で上海・杭州・紹興を訪問しました。

初日には上海を訪れ、日本から参加した学生と合流し、世界で最も早いリニアモーターカーに初めて体験しました。夜には、異国情緒あふれる外灘の夜景を眺めながら世界第2位の東方明珠タワーを登りました。また、当日は中国の旧正月の最終日である元宵節であり、夜景が一層美しく感じられました。

二日目には雪に降られながら、400年以上の歴史を持つ豫園や、三国時代で有名な静安寺を訪れました。その後、新幹線で今回の目的地である杭州に向かい、到着後は銭江新城のナイトイルミネーションを楽しみました。周囲は高層ビルや杭州アジア大会の競技場で彩られ、美しい景色でした。

三日目には、世界文化遺産である西湖十景を訪れました。西湖の景色は現代と古代が融合し、天候によって表情を変える美しさでした。西湖を見た瞬間、詩人蘇軾の詩を思い出しました。

水光瀲灩晴方好 山色空濛雨亦奇 欲把西湖比西子 淡粧濃抹総相宜

【訳】『水面がキラキラと輝き、さざなみが揺れている。晴れた日の西湖は実に素晴らしい。また霧雨で山の色が朦朧とにじんでいる。雨の日の西湖も味わい深いものだ。西湖の様子を伝説的な美女（西施のこと）にたとえるなら、薄化粧も厚化粧も、どちらも似合っていて、素晴らしい』

夜には浙江省人民対外友好協会専職副会長邢绘东先生から私達7名大学生に「青年友好交流使者」の盾を授与され、とても光栄に思い、忘れ難い中国での思い出となりました。

四日目には、杭州市第十三中学校と浙江大学の日本語学科を訪れました。その後、浙江省図書館と無形文化遺産の博物館を見学し、最後に紹興へ移動して、紹興では魯迅の故郷として知られ、彼にゆかりのある地を訪れました。

最終日は、魯迅記念館や紹興酒発祥の地を訪れました。江南地域のお酒の文化を体験して、白石団長の奢りで、紹興酒入りのアイスコーヒーを味わう事ができました。

この4泊5日間の日程はあっという間に終わりましたが、この訪問が私にとって非常に有意義であり、素晴らしい経験となりました。ここで浙江省人民対外友好協会の皆様と栃木県日中友好協会の皆様に心より感謝を申し上げます。今後も栃木県と浙江省の魅力を積極的に発信し、日中友好の架け橋になりたいと思います。ありがとうございました。

感想文

大東文化大学 四年
高橋 佑佳

大東文化大学文学部書道学科4年の高橋佑佳です。

私は2023年の2月から1年間浙江省の「中国美術学院」に交換留学生として書道留学をしていました。

今回、高校の恩師でもある、作新学院高等学校の塚原秀巖先生のお誘いで、浙江省訪問団に参加させていただきました。

普段の留学生活の中で、毎日授業や課題に取り組む日々だった為、杭州以外の地域に行くことがありませんでした。その為、今回浙江省訪問に参加させていただき、上海・杭州・紹興を訪れ、伝統文化や歴史また、現地の美食などを味わいその地域の良さを感じる事ができ、発見と学びの多い素敵な時間を過ごす事が出来ました。また、文化以外にも杭州第13中学校や浙江大学を訪問し、教育や学校施設を見学させていただき、中国の最先端の教育に驚かされました。

今回このような、素晴らしい活動に参加させていただきありがとうございました。私は、今後「書」という伝統文化を通して、日本と中国がより良い関係を築けるよう日中の懸け橋になりたいです。